

ようやく台風一過。およそ1週間かけて沖縄先島諸島から北海道まで日本列島を縦断した台風18号は、全国各地で大きな爪痕を残しました。被害を受けられました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

現在会員登録数2,467人さま。次号は10月20日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 85

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ ■

● 講演会「ドイツの子どもの本の魅力ーブッシュ、エンデから現在まで」
ドイツの児童書の受容の歴史を振り返り、ドイツ児童文学の現状および未来について考える講演会を行います。

講演1：「ドイツの子どもの本の魅力：翻訳を通して出会った作家・作品たち」

講 師：上田真而子（ドイツ文学翻訳家）

講演2：「ドイツの子どもの本ー過去から未来へ」

講 師：酒寄 進一（ドイツ文学翻訳家、和光大学教授）

日 時：11月12日（日）午後1時30分～4時

会 場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

定 員：80人（申込先着順）

参加費：1,000円

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

後 援：大阪府立中央図書館

助 成：子どもゆめ基金助成活動

◇同時開催 展示「ドイツの子どもの本の魅力ー翻訳者上田真而子の仕事ー」

会 期：11月10日（金）～12月28日（木）月曜および第2木曜は休館

会 場：大阪府立中央図書館 1階展示コーナー

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 「第34回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日(火)です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 研究紀要の原稿募集

当財団では論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第31号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第30号」を販売しています。

発行：当財団 2017年3月 A5判156頁 1,400円＋税

● Twitter はじめました

当財団公式 Twitter をはじめました。いろんな情報を発信していきます。

フォローしてください。 https://twitter.com/IICLO_News

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『かえたい二人』 令丈ヒロ子/著 PHP研究所 2017年9月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：中学2年生の月方穂木(ほぎ)は、父親と二人暮らし。前の学校ではヘンジンコと言われていじめられていたが、転校することになり、「ふつう」の女の子のキャラに挑戦する。クラスの女王様の赤坂萌奈(もな)に気に入られて人気者グループに。幸せな気分になりながらも、ついていけないことが多く、穂木と同じ小学校で、一匹オオカミ的な少女である斉藤陽菜(はるな)に密かに相談に乗ってもらって原宿のお出かけを乗り切る。しかし、陽菜が一人なのは、萌奈が仲間外れにしたためだと知る。

T：もともとオタクキャラの穂木がお嬢様キャラをめざし、お嬢様キャラだった陽菜が悪魔少女を目指す。マーク・トウェイン『王子とこじき』を思い起こしながら読みました。物語らしい物語がおもしろかったです。

Y：「キャラを作る」という発想やスクールカーストの考え方は子どもたちにも当たり前になっており、そのことを戯画化しながらも認めた上で、穂木がぶちこわすクライマックスが読者に「キャラ」とは？「ふつう」とは？を投げかけていると思いました。

T：人物像や人物の行動を誇張することによって、笑いの要素ともつながっているけれど、「物語」というものを徹底的に信頼しているわけでもない

よという表明にもなっている点が興味深かったです。

Y：結末で、萌奈が反省して謝るのではなく、キャラを変えてバージョンアップして来るといふ展開がリアルで、いわゆる予定調和的でないと思いました。

T：敵役である萌奈が最後まで立派に敵役を務めるというようにも読めます。おしゃれやおたくや食べ物などについてとても具体的な描写があって、カタログ的である点も、読者には魅力だと思います。

Y：キャラ弁の描写も含めて「モノ」が人をつなげ、「モノ」が愛情を図るバロメーターになるという意味で現代的です。穂木がしっかり者で、父親との二人暮らしを支えているという状況は、「若おかみ」のおっちゃんを思い出しました。

T：穂木は読者にとって理想的な人物として描かれているのかな。

Y：穂木のように萌奈に正面きって批判できなくても、穂木が萌奈にぶつける言葉に共感する読者は多いと思います。そういう意味では、経済的に裕福でないという穂木の設定も、父親のキャラ弁のように、愛情は感じていても、学校では恥ずかしいと思ってしまうというところも、萌奈に受け入れられるために必死になる様子も子どもにとっては身近な出来事だと思って読みました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第25回「鹿（しし）踊りのはじまり」

〈まだ割れない巨きな愛の感情〉

童話集『注文の多い料理店』には、9月の制作日付を持つ作品が3つ収録されています。「どんぐりと山猫」(9.19)、「月夜のでんしんばしら」(9.14)、「鹿踊りのはじまり」(9.15)です(収録順)。9月配信の今回は、そのなかから「鹿踊りのはじまり」を取り上げます。

〈そのとき西のぎらぎらのちぢれた雲のあいだから、夕陽は赤くななめに苔の野原に注ぎ、すすきはみんな白い火のようにゆれて光りました。わたくしが疲れてそこに睡りますと、ざあざあ吹いていた風が、だんだん人のことばにきこえ、やがてそれは、いま北上の山の方や、野原に行われていた鹿踊りの、ほんとうの精神を語りました。〉

あるとき栗の木から落ちて膝を悪くした嘉十は、西の山にある温泉に出かけます。途中、食べきれなかった栃団子を鹿のために残して出発しますが、手拭を忘れて戻ったところ、既に6足の鹿が集まっていました。鹿は栃の団子よりもむしろ、未知の手拭に興味を示し、その周囲をめぐっています。すると、嘉十の耳がにわかにかいんと鳴り、不思議なことに鹿たちのことばが聞こえてきます。

その水晶の笛のような声に嘉十は目をつぶってふるえあがり、太陽や木々に頭をさげて踊りうたう鹿を見て、思わず嘉十も拝みます。神々しい自然を前に、物語は異なるもの(動物と人間)の一体感を描くかのようにみえます。

しかし、鹿の気持ちや声が伝わってきて耳を疑い、がたがたふるえ、鹿の輪の中に飛び出そうとする嘉十は、自らの大きな手を見て思いとどまります。結末、感極まった嘉十は自分と鹿との違いを忘れて思わず飛び出しますが、鹿たちは疾風に吹かれたように去り、両者は決して同化することはありません。この話は初めから、お互い決して交わるもののないものとして描かれているのです。

嘉十の〈にが笑い〉は、それらを十分に認識しながら、踏み越えられない境界を踏み越えてしまったがためのものでしょう。そこに鹿踊りのはじまりの〈ほんとうの精神〉、つまり〈まだ割(わか)れない巨きな愛の感情〉(『注文の多い料理店』新刊案内の文章より)の痕跡が隠されているようです。(ペ吉(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)
※明日9月21日は賢治の84回目の命日。地元・花巻では賢治祭が行われます。

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 85

その11 さまざまなご質問にお答えします(3) おはなし会について

質問：おはなし会終了后感想を尋ねてはいけないと聞いたのですが、子どもの方から感想を言ってきた場合はどうしたらいいですか。

まず、このような「～すべきではない」と言われていることについては、なぜ、そのように言われているのかを考える必要があります。「感想を尋ねるべきではない」と言われているのは、感想を求めることによって、子どもが感想に気を取られながらおはなしを聞くことになり、おはなしに集中して楽しめないこと、感想を求められることによって、おはなしの余韻を楽しめないことになりかねないという理由からです。

子どもが感想を話すことが間違っているのではなく、感想を尋ねることによる子どもに対するプレッシャーが問題ということになります。そうであれば、子どもがおはなしを聞いて感想を言うのは、自然なこととして受け入れることが必要です。その時、その感想を評価したり、他の子どもにも求めたりすることは控えるべきだと思われま

深い溜息をついたり、おはなしや絵本に出てきたフレーズを口ずさみながら帰ったりする子どももいます。また、黙って心の中で物語を反芻している子どももいます。「感想を尋ねない」というのは、子どものさまざまなおはなしの楽しみ方を受け入れる姿勢を示すことなのです。

*次号は「その11 さまざまなご質問にお答えします(4)」の予定です。
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

《4》 行って来ました!

西宮市大谷記念美術館で9月24日(日)まで開催されている「2017 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」に行ってきました。毎年この時期に開催される

巡回展で、日本人6名を含む26カ国75作家の入選作品が展示されています。

絵の具やインクで描かれたものだけでなく、デジタル、版画、コラージュ、刺繍など、さまざまな技法で描かれた作品が、単色のものからカラフルなものまでずらりと並んでいて、見ごたえがあります。

物語を想像しながら、展示された各作品5点1組の絵を見ていきました。色鉛筆で描かれた東洋的な絵柄の「白雪姫と七人の小人」や、鳥の絵に本物の羽根をコラージュした「鳥と少年と列車」という作品が印象に残りました。画面に細かく描きこまれた作品も多くて、トビウオを追いかけてジャングルや海を探したり、大きな動物の背中で暮らすネズミをたどったりして楽しみました。

ボローニャで開催された審査会やブックフェアの様子がビデオ上映されていて、審査員が「最もすぐれた作品であることはもちろんだが、子どもの本のイラストレーションの現状を表している作品を選んだ」と言っているのを聞いて納得しました。

また、特別展示として、ファン・パロミノの絵本『はじまりの前に』の原画と、「見て めくって 感じる 日本の絵本」のコーナーがありました。今年の「ボローニャ・ブックフェア」の「にほんのえほん」ブースで展示された、日本語の壁を超えて伝わる絵本として選ばれた50冊（選書：広松由希子、土居安子）が手にとれるようになっていて、私も文を読まずに絵だけを見てみました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 公開講座「学校図書館ってなんですか？中高生と共に」

日 時：10月10日（火）午前10時～午後3時

会 場：大阪市立中央図書館 5階大会議室（西区北堀江）

第1部 講演会 午前10時～12時

講 師：飯田寿美（元小林聖心女子学院専任司書教諭）

第2部 交流会 午後1時～3時

実践報告「学校図書館の機能を活かした、中学校の授業実践」

講 師：田中瑞穂（箕面市立第三中学校 学校司書）

参加費：無料 資料費：100円 申込み：不要

主 催：大阪府子ども文庫連絡会

● 「森の素材を使って 絵本をつくろう！」

貝塚市にある自然いっぱいの少年自然の家の森を、絵本の物語を創造しながら探検し、森で見つけたものを使って自分だけの絵本づくりを楽しみます。

講 師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 総括専門員）

日 時：10月22日（日）午前10時～午後4時

対 象：幼稚園年長および小学生を含む家族

定 員：10家族または30名

参加費：有料 申込み：必要（申込先着順）

主 催：大阪府立少年自然の家

協 力：大阪府立中央図書館 / 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『かえたい二人』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.85プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は10月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

9秒98! 「50メートルでもむりやなあ?」と運動会近づく小学生の子…。風が強く、他のレースは追い風参考になっていた日の決勝、審判員は早くから吹き流しを見て風の息を読み、公認記録になる絶妙なタイミングで号砲を鳴らしたのだった。

レース後、その審判員に「名スターターだ」と声をかけたのは、前日本記録(10秒00)保持者という。皆の後押しで壁が破れた大記録と知った…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
